

第4回委員会における検討内容と意見等の整理

第4回委員会における検討内容の整理

(1) 第3回委員会における検討内容と意見等の整理【報告事項】

- ・事務局より資料1に基づき報告があり、第3回委員会における検討内容と意見等を確認した。
- ・第3回委員会で意見のあった内容については、答申(案)に反映するとの報告があった。

(2) 余熱利用計画の検討について

- ・事務局より資料2に基づき、エネルギー回収技術、ボイラーの高温高圧化、エネルギー対策についての検討結果が報告された。審議の結果、事務局提案を妥当と判断し、提案どおり認めることとした。
 - これまで建替えや設備更新を行ってきた経験から高効率なエネルギー回収には、低温エコマイザ、低空気比燃焼、低温触媒脱硝の技術は必須であるほか、第2回委員会で決定した乾式排ガス処理、圧力波式スートブロワについても導入しエネルギー回収を行う。
 - ボイラーの高温高圧化については、他自治体の導入事例を調査したところ蒸気圧力 6.0MPa、蒸気温度 450℃の施設が稼働し始めていることから、技術的に対応可能な蒸気条件となったことを鑑み、蒸気圧力 6.0MPa、蒸気温度 450℃を基本とする。
 - エネルギー回収率については、循環型社会形成推進交付金(エネルギー回収型廃棄物処理施設整備事業の交付率 1/2 対象施設)の交付要件を満たすものとする。
 - 創蓄省エネルギー対策に取組み、現在の鶴見工場に比べて所内負荷が 10%程度低減することを目標とする。
- ・「エネルギー対策については、鶴見工場の立地条件を考慮して、先進的な設備の導入を検討してほしい」との意見があった。

(3) 見学者設備の検討について

- ・事務局より資料3に基づき、見学者設備のテーマ、見学者動線、見学者設備についての検討結果が報告された。審議の結果、事務局提案を妥当と判断し、提案どおり認めることとした。
- 見学者設備のテーマを設定することは、教育や普及啓発にとっても非常に重要であるため、鶴見工場の見学者設備のテーマは次の①から③のとおりとする。また、設定したテーマに沿って見学者動線、設備等に反映していくものとする。なお、鶴見工場の稼働時期を鑑み、説明に使用する言葉については、時限的に有用と考えられる言葉はできるだけ使用せず、将来に渡って普遍的であると思われる言葉を用いることとする。
 - ①ごみ焼却工場は社会インフラの一環であり、社会形成の重要な役割を担っていること。
 - ②最高水準の公害対策技術を導入しており、環境対策を十分に実施していること。
 - ③焼却余熱を活用してエネルギーをつくっており、地球温暖化対策に貢献していること。
- 見学者動線については、一筆書き動線を採用することとし、可能な限りごみ処理の流れに沿った説明ができるような動線にする。また、見学者と工場作業員の動線が同一とならないよう分離するとともに、ユニバーサルデザインを採用する等、あらゆる人に配慮したものとする。
- 見学者設備については、ごみ焼却工場の仕組みや取組み等をわかりやすく説明し、理解していただけるような工夫をし、効果的かつ印象的に説明する設備を採用する。
- 感染症拡大防止対策や遠隔地の方への配慮として、ウェブ上で工場見学ができるバーチャル工場見学の取組みも行う。
- ・「見学者を受け入れる目的が明確になっていることは良い」との意見があった。
- ・「時代のトレンドに対応可能なフレキシブルな見学者設備ができれば望ましい」との意見があった。
- ・「最終処分やリチウムイオン電池由来のごみの火災が問題となっていることなど、現場の状況を市民に理解してもらうものも必要ではないか」との意見があった。
- ・「見学者設備は小学生だけでなく、一般の方も見学に来るので多様な見学者に対応した施設にしてほしい」との意見があった。

第4回委員会における意見等の整理

(1) 第3回委員会における検討内容と意見等の整理【 報告事項 】

・特になし。

(2) 余熱利用計画の検討について

○住之江工場で採用している水冷式復水器と比べると、空冷式復水器はエネルギー回収の観点では不利という認識で合っているか。

→そのとおりである。

○トプラランナーモータを既に採用している住之江工場のものと比べて効率はさらに良くなるのか。

→住之江工場と比べるとそれほど性能が上がらないと思うが、現在の鶴見工場と比較すると高効率化は図れると考えている。

○大容量蓄電池は話題の技術なので、導入を実現できるように事業者に投げかけてほしい。

→事業者に働きかけたいと思う。

○エネルギー対策で挙げられている技術はすべて要求水準書に含めるのか。

→ここで挙げている技術はあくまでも例であり、要求水準書に含めるのは現在の鶴見工場に比べて所内負荷が10%程度低減することのみである。これらの技術は、導入に向けて提案を求めることになる。

○空冷式復水器でも面積を増やす等の工夫で凝縮温度を下げられると思うが、排気の低圧側には注力しないのか。

→排気の低圧側は技術的に検討が難しいため、事業者提案になると考えている。

(3) 見学者設備の検討について

- エレベーターを順次使える場合はいいが、階段での移動は少し心配である。小学生の見学などの人数が多い時の移動について何か考えはあるのか。
- 東淀工場の例では引率の先生と工場職員が手分けしてエレベーターで昇り降りしている。階段が使えない方もいるので基本的にエレベーターでの移動を中心に考えている。
- 見学者が作業エリアに紛れ込まないことが最も重要だと考えているので、これまでと同様に作業動線との分離、必要な場合は施錠をする等といった点には十分に配慮していきたいと思う。
- 運営方式にもよると思うが、見学者への説明は誰がするのか。
- 見学者への説明については、基本的には誰でも説明できるような設備を作りたい。
- 示しているテーマに賛成である。特に①のテーマを中心にした提案を促してほしい。
- 小学生が対象の施設になりがちだが、組合にはたくさんの施設があるので幅広い年齢を対象に特化した施設を作れないか。
- 今回示しているテーマは鶴見工場だけでなく、既存の施設でも同様のことを学べるようにしてほしい。
- 説明内容は時代とともに変わっていくものだと思うので、設備自体はシンプルなものでいいと思う。運営で工夫できるようなものにしてほしい。
- 見学者と工場作業員の動線は同一にしないことも重要だとは思うが、少しぐらい交差した方が面白いのではないか。
- それぞれのご意見を踏まえ、検討していく。